

報告者 鈴木 悟 (札幌)

3度目のインターハイ研修会の参加となりました。今回の目標として、「プレイの見極め」「表現力の向上」「より公平にゲーム管理を行うこと」を目標に参加してきました。また、本大会の割り当てについても2回戦以上を経験していないことから、絶対に3回戦以上を勝ち取る決意を持って挑みました。

開講式において「信頼される判定をするために」をテーマに佐藤誠氏より講義していただきました。平等・公平にゲームを運営するために、①正しい判定に必要なこと。②大会参加への気持ち。(心構え) ③判定力の向上。④フィジカルコンディショニング(体調管理) ⑤言動について。の5点についてご教授頂きました。詳細については別紙に資料に示しますが、審判員として日頃の準備が大変重要であることを再確認しました。

研修会は、A班で14名全員がAA級を含め上級審判員でした。また、AA級審査の最終審査へノミネートされている審判員もいる班でした。別府アリーナとダイハツ九州アリーナ会場共にクーラーが効いており、大変快適な環境で研修を受けることができました。

講師の先生は石黒勉氏と清水幹治氏でした。班別トレーニングでは自分の目の前のプレイと相手レフリーの位置を視野に入れる位置取りと判定する位置や体の向きについて分解練習を行いました。1つの判定をするにも相手レフリーとの位置関係や周囲の状況など様々な要素を入れながら判定することの必要性を勉強させて頂きました。また、リードからトレイルに入るときに3m後方を追従する必要性や3番エリアから始まるプレイの見方など細かく分解練習をすることにより大変解りやすいものとなっていました。今後、地元での講習会等に積極的に取り入れ、多くの審判員に吸収して頂きたいものばかりでした。

モデルゲームは、研修会2日目の最終ゲームで千葉英和と県立小林のゲームでした。女子のゲームであったため、スペースがめまぐるしく変わるため、細かい動きが多く求められました。しかし、両チームともフィジカルが強く、接触があってもしっかりとプレイする場面が多く見られ、判定で困ることは少なく1ゲームをおけることができました。緊張の中、現在もっている力を発揮できたと思います。

本大会では、1回戦は女子のゲームで神奈川県金沢総合高校と高知県岡豊高校との対戦でした。2回戦は注目カードでもあった、千葉縣市立船橋と秋田県能代工業との対戦。3回戦は福井県北陸高校と茨城県土浦日大高校。そして、4回戦は愛媛県聖カタリナ高校と静岡県常葉学園高校の対戦でした。

今回のインターハイでは目標以上の成果を上げることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。このような機会を与えてくださった全国高校体育連盟バスケットボール専門部・大分県バスケットボール協会の皆様・北海道バスケットボール協会・札幌地区バスケットボール協会を始め、多くの方々に感謝いたします。

研修生 班分け

| Aグループ (14名) | | |
|-------------|-------|-----|
| 講師 | 石黒 勉 | |
| 講師 | 清水 幹治 | |
| 都道府県 | 氏名 | ランク |
| 北海道 | 鈴木 悟 | A |
| 山形 | 大川 修平 | A |
| 埼玉 | 北島 寛臣 | A |
| 東京 | 谷古宇 孝 | AA |
| 千葉 | 三好 啓太 | A |
| 茨城 | 稲葉 威 | A |
| 神奈川 | 大庭 英裕 | A |
| 大阪 | 古島 尚弥 | A |
| 兵庫 | 塚本 圭右 | A |
| 和歌山 | 那須 弘幸 | A |
| 岡山 | 前花 直哉 | A |
| 徳島 | 柏原 琢磨 | A |
| 高知 | 武内 克行 | A |
| 熊本 | 岩尾 圭治 | A |

| Bグループ (14名) | | |
|-------------|--------|-----|
| 講師 | 吉橋 雅一 | |
| 講師 | 安西 郷史 | |
| 都道府県 | 氏名 | ランク |
| 青森 | 秋庭 淳 | A |
| 秋田 | 佐藤 匠 | A |
| 福島 | 植田 浩司 | A |
| 栃木 | 山崎 雅洋 | A |
| 東京 | 望月 由希子 | A |
| 滋賀 | 渡邊 浩二 | A |
| 奈良 | 古谷 栄一郎 | A |
| 長崎 | 大久保 好純 | A |
| 宮城 | 三瓶 吉人 | 公認 |
| 群馬 | 小澤 朋克 | 公認 |
| 島根 | 野津 健 | 公認 |
| 広島 | 小原 健太 | 公認 |
| 大分 | 小田原 康弘 | 公認 |
| 福岡 | 和田 敏文 | 公認 |

| Cグループ (14名) | | |
|-------------|--------|-----|
| 講師 | 佐藤 誠 | |
| 講師 | 渡邊 整 | |
| 都道府県 | 氏名 | ランク |
| 北海道 | 富士 将史 | 公認 |
| 東京 | 田中 健二郎 | 公認 |
| 千葉 | 櫻田 理恵 | 公認 |
| 長野 | 飯島 岳幸 | 公認 |
| 石川 | 吉田 智子 | 公認 |
| 福井 | 梅田 香 | 公認 |
| 静岡 | 内田 達彦 | 公認 |
| 愛知 | 居波 傑 | 公認 |
| 岐阜 | 名越 龍男 | 公認 |
| 京都 | 大林 裕子 | 公認 |
| 香川 | 仲地 祥吾 | 公認 |
| 佐賀 | 堤 哲也 | 公認 |
| 大分 | 津軽 啓二 | 公認 |
| 鹿児島 | 隈元 ゆみこ | 公認 |

| Dグループ (14名) | | |
|-------------|--------|-----|
| 講師 | 相原 伸康 | |
| 講師 | 岩木 太郎 | |
| 都道府県 | 氏名 | ランク |
| 岩手 | 高橋 健 | 公認 |
| 千葉 | 中島 弘幸 | 公認 |
| 山梨 | 手塚 清孝 | 公認 |
| 新潟 | 鈴木 宏 | 公認 |
| 富山 | 島田 育弘 | 公認 |
| 三重 | 石井 裕範 | 公認 |
| 京都 | 中澤 久馬 | 公認 |
| 鳥取 | 田中 竜 | 公認 |
| 山口 | 唐渡 大輔 | 公認 |
| 愛媛 | 小笠原 淳 | 公認 |
| 長崎 | 寺田 祥 | 公認 |
| 宮崎 | 小川 隆三 | 公認 |
| 大分 | 佐々木 正洋 | 公認 |
| 沖縄 | 石嶺 良方 | 公認 |

《 3 回戦 》

| | | | | | | | | |
|----------------|------|----|---|---|---|----------------|----------|-------|
| ●平成25年7月31日(水) | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | $\left\{ \begin{array}{l} 21 \\ 24 \\ 20 \\ 32 \end{array} \right.$ | $\left\{ \begin{array}{l} - \\ - \\ - \\ - \end{array} \right.$ | $\left\{ \begin{array}{l} 21 \\ 17 \\ 17 \\ 21 \end{array} \right.$ | | | |
| | 北陸 | 97 | | | | | 76 | 土浦日本大 |
| | (福井) | | | | | | | (茨城) |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | 【主審】山内 俊幸 (本部) | 【副審】鈴木 悟 | |

講評

- ・両チームともディフェンスを頑張りチープなあたりに対してもしっかりとショットに行こうとしている中、確かにファウルと判定してもおかしくない接触はあるが、ゲームの流れとしてファウルとしない方が良かった。
- ・動きながらの判定は大変難しいので、無理をして判定をせず相手レフリーにまかせることも必要である。

《 4 回戦 》

| | | | | | | | | |
|---------------|-------|----|---|---|---|----------------|----------|------|
| ●平成25年8月1日(木) | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | $\left\{ \begin{array}{l} 27 \\ 25 \\ 16 \\ 20 \end{array} \right.$ | $\left\{ \begin{array}{l} - \\ - \\ - \\ - \end{array} \right.$ | $\left\{ \begin{array}{l} 21 \\ 18 \\ 24 \\ 22 \end{array} \right.$ | | | |
| | 聖カタリナ | 88 | | | | | 85 | 常葉学園 |
| | (愛媛) | | | | | | | (静岡) |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | 【主審】伊藤 亮介 (本部) | 【副審】鈴木 悟 | |

講評

- ・特に判定や位置取りについてはなく、いくつかのケースでしっかりと判定したのかを確認した。全体を通じてしっかりと足を運び判定をしていたと良い評価を頂いた。

《 感 想 》

今回のインターハイでは、4回戦までレフリーとして参加することができ、本当に貴重な経験をさせていただきました。その反面、3名のAA級審判員の副審としてゲームを経験し、やはり実力の差があることも実感しました。最もその差を感じたのは2回戦の市立船橋対能代工業との試合でした。ベンチの対応や判定のわかりやすさなど、まだまだ差があると感じ悔しい思いもしました。この経験を北海道や札幌で広く伝えて審判員の技術向上に役立てることができるよう努力していきます。